

庭野平和財団
平成 24 年度最終報告書

団体名： (特活) アフリカ地域開発市民の会
コード番号： 12-A-056
事業名称： ケニア・ムインギ東県での小学生の早期性交渉・妊娠予防への取り組み

1. 活動の目的

当会は 1998 年よりムインギ東県において保健・教育・環境分野を統合する参加型社会開発に取り組んでいる。そのなかで、地域の大人が主体的に子どもの健康と教育を保障する取り組みに協力するために、住民への保健・エイズ研修と、小学校教員へのエイズ教育研修を並行して実施してきた。教員研修では、エイズに関する理科的知識の向上、HIV 陽性が疑われる住民の社会的排除や子どもの受動的性交渉につながる地域の文化的・社会的習慣など社会的側面、エイズ教育の教授法実習とライフスキル教育の統合をめざしてきた。ライフスキル教育は、自己を知り大切にする力、他者を知り良好な関係をつくる力、創造的思考や批判的思考などによる判断力を育成することをめざしている。

県教育局長は、当会の教員研修を評価し、いくつかの小学校で少女の妊娠が続いている事実を当会に告知し、課題解決に向けた協力を求めてきた。当会は、この課題を、地域の社会習慣・大人の態度に関連したものとして捉え、少女の受動的性交渉と理解して、住民および教員それぞれの研修のなかで、折に触れ課題提起をしてきたが、これを機会に当会専門家が小学校を訪問する早期性交渉・妊娠予防研修を形成した。県教育局の協力をえて、2010 年 10 月から 2012 年 7 月まで、20 校で実施した。県教育局長は、本研修が妊娠事例の減少に貢献していると実感しており、当会専門家による個別小学校での研修の継続を要請したため、その要請に応じて、本助成を活用して個別研修を継続実施した。

2. 活動の内容と方法

子どもを守ることは、地域の大人たちの責任であることを再確認し、教員と保護者が、協働して子どもの保護とともに、自らが性交渉や望まぬ妊娠などのリスクを回避する力を高めることをめざす。そのために、教員と保護者が思春期の子どもの発達や性交渉から生じる問題などを知識として体系的に理解した上で、協働して予防教育ができること、問題が生じた際には緩和と問題の深刻化を予防する行動が取れることが重要である。

これらの活動のために、以下の活動を実施する。

1) 事前準備

県教育局長・各教育区教育官を訪問し、ニーズが高く個別研修を実施する学校を 4 校選定する。選定された学校の校長を訪問し、研修の目的、背景、内容を共有する。

2) 個別学校研修

選定された学校を当会専門家が訪問し、3日間にわたる個別研修を実施する。第1日目は教員研修、第2日目は保護者への研修そして教員と保護者の話し合い、第3日目は子どもへの保健トークの順で行なう。研修内容は、教科書で取り扱われている性と生殖に関する健康・ライフスキル教育を中心に、地域社会の性交渉に関連する習慣・意識への理解の促進、早期妊娠のリスク・性感染症の身体への影響・私的中絶の事例、コンドームの理解と実習などを取り扱う。

3. 活動の実施経過

3-1. 事前準備

3-1-1. 教育行政との調整

2013年1月8日、ムインギ東県教育局長を訪問し、小学校での早期性交渉・妊娠予防研修の継続について話し合ったところ、教育局長から早期妊娠の件数からそのニーズが高いと思われる小学校4校が提案され、以下の理由のため本研修を行なう優先度が高いことに当会も合意した。

教育区	学校名	選出理由等
グニ	グニ	2012年の早期妊娠件数が3件あり。
ヌー	ムアンゲニ	2012年の早期妊娠件数は1件。近接してムアンゲニ高校が開校し、高校生と小学生の接触が容易になり性交渉に繋がる危惧あり。
	ニヤーニ	2012年の早期妊娠件数は不明。しかし、年齢の高い女子生徒数が多い。
ムイ	マルキ	2012年の早期妊娠件数は4件。2011年に当会の早期妊娠予防研修は実施済みだが、早期妊娠の件数が最も多い。教育局長から、その件数の多さから再度の研修の要望があり、教育官が、教員研修と保護者研修へ同席することを条件に実施に合意した。

また、研修の実施にあたって教育局長から以下3点の要望が挙げられた。

- 早期妊娠に関する状況を保護者代表として把握するよう、学校運営委員1名に3日間を通して研修に参加してもらうこと。
- 高校での妊娠による退学も課題となっているので、高校生への保健トークも必要性が高く、高校でも実施してほしい。
- 事例として挙げてこないが、小学校の早期妊娠件数低下の背景に中絶がある可能性があるため、その危険性についての説明を強調してほしい。

教育局長との話し合いを踏まえ、同日、グニ教育官とヌー教育官を訪問し、教育局長の合意内容を共有した。ムイ教育官は教育局長との話し合いの場にはいたため、改めて訪問はしなかった。どちらの教育官からも追加の要望はなく、教育局長から提案された小学校での研修実施に合意した。

3-1-2. 校長訪問

教育行政との合意にそって、以下の日程で選定された小学校を訪問し、早期性交渉・妊娠予防研修の実施について校長との話し合いを行なった。

教育区	学校名	訪問日
グニ	グニ	2013年1月14日
ヌー	ムアンゲニ	2013年1月18日
	ニヤーニ	2013年1月14日
ムイ	マルキ	2013年1月15日

各学校で校長より確認した基本情報ならびに子どもの早期性交渉・妊娠につながるリスクの情報は、以下のとおりである。

学校名	基礎情報	子どもの早期性交渉・妊娠につながるリスク
グニ	生徒数：4-8生 267名 保護者数：70名 教員数：13名（校長含む）	2012年にグニ小学校で早期妊娠を理由に退学した生徒は7年生1名、8年生1名の2名で、8年生の女子生徒は出産後復学したとのこと。2名とも結婚はしておらず、その他の早期結婚もないとのこと。他、男子生徒2名が、休み中にモーターバイクの運転手になり退学したケースがあった。町に近い学校であり、大人からの甘誘があることが推察される。また、覚醒作用のあるミラー ¹ を常用する生徒もいるとのこと。生徒の早期妊娠が起こっていることから、校長は研修に対して積極的な様子が伺えた。
ムアンゲニ	生徒数：4-8年生 154名 保護者数：100名 教員数：10名（校長含む）	2012年の早期妊娠件数は2件。18歳1名、20歳1名と年齢の高い生徒の妊娠であった。 以前に教室建設などで当会と関わってきた校長であるが、保健研修に参加したことはない。研修開催にあたり校長の協力は不可欠であり、今後の調整等、慎重に行なっていく必要がある。
ニヤーニ	生徒数：4-8年生 137名 保護者数：90名 教員数：8名（校長含む）	校長は、以前に当会で行なったエイズ研修修了者であった。昨年、早期妊娠を理由に退学した学生は2名であった。特にこの地域では、子どもを対象とした近親相姦が問題であるとのことであり、保護者向けの研修の必要性が伺えた。
マルキ	生徒数：4-8年生 400名 保護者数：140名 教員数：14名（校長含む）	校長は2011年に当会が同研修を行なった時と同じ校長であり、その際、非協力的で研修にも参加せず、再研修に対しても消極的な様子であった。通常、再研修は行わないが、2012年、早期妊娠を理由に退学した生徒が6年生2名、7年生2名と教育事務所が把握しているなかでは、ムイ ¹ ンギ東県で最も多く、生徒数が多いことから問題の深刻さが推察され、また、改善も見られないことからムイ ¹ ンギ東県教育局長の要望を受け、再度研修を行なうことを説明した。

¹ ミラー：MiraaまたはKhatとして知られる覚醒作用のある植物で、葉と茎を噛んで使用する。ケニアでは違法覚醒剤には指定されていないため、通常の商業ルートで広範に流通している。

3-2. 個別学校研修

小学校での早期性交渉・妊娠予防研修を以下のとおり実施した。なお、各学校での研修の詳細状況等は、「4. 活動の成果」を参照のこと。

学校名	研修の種類	実施日	参加者数	その他
グニ	教員研修	2013年 1月21日	11名(13名中)	1名は以前に当会で行ったエイズ研修修了者。校長は不在であり、学校運営委員も欠席であった。
	保護者向け研修	2013年 1月22日	46名(70名中) 研修後の教員と保護者の話し合いには、7名の教員が参加。	収穫が忙しい時期であるものの、半数以上の保護者が集まり、参加態度も活発で、多くの発言、質問が出ており、子どもや保健に対して関心が高い様子が伺えた。
	生徒向け保健トーク	2013年 1月23日	4-8年生の男女210名	参加教員は2名。学校運営委員の女性1名も参加した。
ムアンゲニ	教員研修	2013年 2月5日	11名(ヌー教育官、学校運営委員1名、校長を含む)	教員のうち2名は隣接するムアンゲニ高校の教員。
	保護者向け研修	2013年 2月7日	21名(100名中) 研修後の教員と保護者の話し合いには、5名の教員が参加。	収穫時期であり、多くの保護者は畑に出ており参加率は低かった。参加した21名の保護者の参加態度は活発で、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られた。
	生徒向け保健トーク	2013年 2月8日	4-8年生の男女120名と、高校生48名	参加教員は、小学校4名、高校2名。学校運営委員の女性1名も参加した。
ニャーニ	教員研修	2013年 2月11日	9名	教員のうち1名は、以前に当会で行ったエイズ研修修了者。4名は隣接するニャアニ高校の教員。校長(当会エイズ研修修了者)、学校運営委員ともに欠席であった。
	保護者向け研修	2013年 2月12日	82名(90名中) 研修後の教員と保護者の話し合いには、6名の教員が参加。	他の地域と同じく収穫が忙しい時期であるものの、ほぼ全ての保護者が集まり、保護者が学校側に協力的であること、教員と保護者の関係が良好であることが推察される。
	生徒向け保健トーク	2013年 2月14日	4-8年生の男女145名と、高校生27名。	参加教員は、小学校2名、ニャーニ高校2名。
マルキ	教員研修	2013年 1月28日	11名	教員のうち2名は隣接するマルキ高校の教員。校長は学校にいたものの研修に参

				加せず、学校運営委員も欠席。出席に合意していたミイ教育官も欠席。
	保護者向け 研修	2013年 2月15日	11名（140名中） 研修後の教員と保護者の話し合いには、2名の教員が参加。	今回は再開催の研修であり、実施に当たって教育局長と話し合い、助役から告知してもらうなど力を借りたが保護者の参加が悪かった。
	生徒向け保 健トーク	2013年 2月20日	4-8年生の男女307名と、高校生79名。	参加教員は、小学校1名、高校8名。

4. 活動の成果

個別学校研修の実施により、研修参加者（教員、保護者、生徒）が、早期性交渉・妊娠・中絶に関する身体への危険やコンドームの効果について、理解を深めることができた。また、教員と保護者が、子どもの性交渉の危険について、知識・地域事情・事実に基づいて討議する機会を提供できた。

各小学校での具体的成果等は、以下の通りである。

4-1. グニ小学校

教員研修では、専門家からのエイズや性感染症、早期妊娠の危険性など、理科的知識に関する問いかけに対して、自発的に回答する教員はおらず、消極的な様子が見受けられたが、熱心に記録を取っている教員も観察された。教員、保護者、生徒間で期待される関係性など、知識部分以外の話し合いでは教員から多くの発言があった。しかし、理想的な意見は挙がるものの、具体例は挙がらず、現実的に行なっているのかは見えてこなかった。また、期待される教員と保護者の関係においては意見が一つも挙がらず、教員と保護者が互いに協力的でないように思われた。子どもがもたらされる性交渉の状況については、研修中で一番発言があり、興味や貧困、迷信、お金を持たせずに子どもをお遣いに出すことなど、実際にこの地域で子どもが危険な状況に晒されていることが推察された。

保護者向け研修では、知識に関しては、HIV感染経路は性交渉のみであると思っていた参加者も一部いた。また、性感染症の深刻化した症状や早期妊娠の危険性に関しては、多くの参加者が驚いている様子であったことなどから、保健の知識は全体的に低いようであった。コンドーム使用法の実演では、コンドームを開封している参加者は少なかったものの、熱心に聞き留め、積極的に知識を得ようとする態度が確認できた。子どもへの保健トークでのコンドーム紹介についても、賛成する保護者の割合が多かったことから、ここからも子どもが危険な状況に晒されていることが推察された。

保護者向け研修後の、教員と保護者の話し合いでは、校長が議長となり話し合いが進められた。両者とも、活発に意見を交わし積極的な姿勢が見られた。子どもを危険に晒す状況を作り出しているのは大人だとし、具体例を挙げながら防止策を考え、そのためにはお互いの協力が必要であることを認識していた。生徒向け保健トークのクラス分けについては、キリスト教徒の保護者からコンドームを見せること

へ反対意見もあったが、教科書に記載があること、また、もしも子どもが幼い内に親が亡くなった場合など誰が教えるのかなどの意見が挙がり、全てのクラスで見せる事が決まった。コンドームを見せるのであれば、男女別のクラスであるべきだとの意見が取り入れられ、①4、5年生女子、②6、7、8年生女子、③4、5年生男子、④6、7、8年生男子の4クラスで合意した。

生徒向け保健トークでは、低学年、高学年共、専門家からの質問に、恥ずかしがりながらも正しく回答しており、また、低学年でもライフスキルに関して、いくつかの例を挙げることができるなど、全体的に保健の知識が高い様子が伺えた。大方の生徒は道端や家でコンドームを見たことがあり、また、全てのクラスで中絶方法が子どもたちからいくつか挙げられ、そのほとんどが身近に手に入る物の摂取であり、性交渉や中絶の言説が子どもにとって身近であることが推察された。

4-2. ムアングニ小学校

教員研修では、教育官が出席していたこともあり、教員は熱心に記録を取り、集中して講義を聞き留めている姿が観察された。保健の知識に関しては、科学的な知識など欠けている部分があり、また、HIV感染が成立する体液として唾液があがり、誤解や部分的な知識の低さが明らかになった。ライフスキルに関しても授業を設けていないため、知識がない様子であった。子どもが性交渉の危険に晒される状況として、夜遅くに一人にすること、大人がお金で性交渉を求めること、教員や親との性交渉などが挙がり、実際に子どもが危険な状況に晒されていることが推察された。研修後、校長から研修で得た知識の重要性を理解したこと、子どもを守るために保護者と協働し、より良い環境を作る必要があることが言及され、教育官は、その為にもより大きな規模での研修の必要性を訴えていた。

保護者向け研修では、思春期の男の子の変化の一つである夢精について準備が必要であるかとの質問が挙がり、また、性感染症の深刻化した症状や早期妊娠の危険性に関する知識はない様子であることなどから、保健の知識はあまり高くないように思われた。しかし、子どもの心の変化については理解しており、子どもを良く観察していることが推察された。また、教員が誤解していた唾液についても正しい知識を持っていた。子どもが性交渉などの危険に晒される状況として、学校で良い点数が欲しいためなど見返り目的で性交渉を持ちかけることが挙げられ、学校が根源の一つであることが浮き彫りとなり、身近な環境から危険な状況に晒されていることが推察される。

保護者向け研修後の、教員と保護者の話し合いでは、校長が議長となり話し合いが進められた。校長は、この地域では母親が息子を指導すること、父親が娘を指導することが禁忌とされているが、子どもを守る為にも両者が指導していく必要があると述べ、保護者も理解を示している様子が伺えた。生徒向け保健トークのクラス分けについては、様々な意見が挙がったが、多数決により年齢別の男女混合で合意した。4つのグループは、①10-12歳、②13-14歳、③15-16歳、④17歳以上のグループに決まり、15歳以上のグループではコンドーム実演を行うこととなった。10歳から14歳のグループは、専門家がコンドームを見せ、道に落ちていているのを見つけた際など触ったり、風船にしたりして遊ばないよう説明するに留めることとなった。

生徒向け保健トークでは、小学校では、全てのクラスで教員と同じく唾液が HIV 感染する体液として挙がり、また、ライフスキルに関する知識がなく、全体的に保健の知識が低い様子が伺えた。正しい知識の付与や判断力育成のためにも、教員の知識向上が求められる。高年齢のグループでは、早期妊娠の危険性の説明を受け不安気な様子の生徒が観察された。また、全てのクラスで、中絶の方法としてマラリア薬（クロロキン）の摂取が挙がり、妊娠や中絶の言説が身近であることが推察された。高校では、生徒は集中して講義を聞いており発言も多く、提示される新しい知識を熱心に書き留める姿が観察された。ライフスキルに関しては、時間割りに組み込まれており、知識がある様子が見受けられた。様々な疾病に関して他人事の様子ではあったが、自身にも起こり得ることと指摘することで、印象が変わったようであった。小学生と比べ理解が速く、性交渉や妊娠のリスクについて知識として理解をしている様子が伺えた。

4-3. ニャーニ小学校

教員研修では、専門家からの問いかけに対して、一部の教員のみが発言していた。保健の知識はがあると推察されるものの、考え中であると回答するなど、発言することに消極的な教員もみられ、意欲的でない様子が伺えた。この小学校でも唾液が、HIV 感染が成立する体液として挙がり、古い知識が浸透していることが伺えた。子どもが妊娠した結果、起こり得ることとして、中絶の他に他校では挙がらなかった自殺が教員から言及されたが、飛躍しすぎていると思われたためか他の教員からは笑いが起こり、真剣に受け取っている様子ではなかった。子どもが危険に晒される状況を作り出しているのは大人であるとの認識はあるものの、危険から守る事は、大人の責任であることを認識していないと思われる。

保護者向け研修では、カンバ人の特性とのことであるが、この地域の女性は非常に内気であり、思春期の子どものように人前で発言することを恥ずかしがる様子が観察された。全体的に受け身で発言が少なく、HIV 感染の方法は性交渉のみであると断言する保護者もおり、研修前の保健的知識は低いように思われた。研修後の振り返りで、保護者から適切な知識が改めて言及され、研修内容を理解していることが推察された。

保護者向け研修後の、教員と保護者の話し合いでは、校長が議長となり話し合いが進められた。子どもを危険に晒す状況として、大人が及ぼすものや地域の習慣などが挙がり、大人が与える影響力について改めて考える機会になったと思われる。校長は、村の集会などで今日得た知識を共有し、地域全体で子どもを守っていくべきであると述べ、宗教上の理由から、研修場所から遠く離れ、配布物にも触れたがらない保護者もいたが、多くの方が適切な知識を得て、子どもの発達や性交渉から生じる問題を理解したことで、今後、教員と保護者が協働して予防に取り組んでいくことが期待される。生徒向け保健トークのクラス分けについては、年齢別を支持する保護者が多く、性別については男女混合で勉強をしている為、一緒にすることに問題ないという意見が挙がり、①10-12 歳、②13-14 歳、③15-16 歳、④17 歳以上の男女混合で行うことで決まった。また、コンドーム実演に関しては、練習をしようとする生徒が出てくるため行なわない方が良いとの意見が挙がったが、教員から、高学年の生徒がコンドームを所持していたことがあることや、コンドームの広告宣伝に触れる機会があることから、子どもたちはコンドームについて知っており、また親の性交渉を覗きみて子どもが真似をする可能性もあるとの意見が挙が

り、危険から守る為にも知識として教える必要性を説き、最終的には10・14歳はコンドームを拾わないように説明するにとどめ、15歳以上はコンドーム実演を行なうことで合意した。

生徒向け保健トークでは、全クラスとも生徒は静かに専門家の説明を聞き留めており、内気で発言は少なかった。ニャーニ小学校では、ライフスキル教育を体育の授業

内に取り入れているとのことであったが、知識はあまりないようであった。保健の知識は低くないものの、教員と同じく HIV 感染が成立する体液として唾液を挙げる生徒がみられ、教員の知識が生徒へ直結していることが伺える。高校では、1クラスであったため、教員、保護者と同じく3時間の研修を行なった。生徒は、積極的に研修に参加し、理解は速く、理科的な知識に対する質問も多かった。性感染症の深刻化した症状や、早期妊娠の危険性など、知識として理解をしている様子が伺えた。

今回研修を行なった学校のなかで、ニャーニ小学校が最も奥地に所在しているが、奥地に行くほど情報からも遠く、知識が入ってこないのか、他校と比べて教員、保護者、生徒ともに保健の知識が低いように思われた。

4-4. マルキ小学校

教員研修では、専門家の問いかけに対して適切な回答が挙がり、教員の保健の知識は高い様子が伺えた。しかしながら、一部の教員は、HIV 感染が成立する体液について精子と精液を混同しており、生徒への誤った知識の付与が懸念される。子どもを危険に晒す状況として、圧力、貧困、売春が挙げられたが、他人事のような様子で関心が低いことが観察された。同校では、2011年にも同じ研修を開催しているがその際も同校長は参加せず、研修後の2012年には早期妊娠が4件発生するなど改善も見られていない。教員向け研修の2日後に開催予定であった、保護者向け研修は集まりが悪く延期になるなど、校長の責任感の欠落が保護者の協力を得られない原因の一つであることが推察される。教員、保護者が協働して子どもを保護するためには、まず校長の意識改善が求められる。

保護者向け研修では、保護者の参加率は低かったものの、途中、助役も参加し、参加した保護者は積極的に研修に参加していた。全体的に保健の知識は低い様子であった。保護者側からは、以前にも行なった研修であるため繰り返しになり、参加しない保護者もいるとの意見もあったが、研修中、保護者から質問が挙がることなどから、一回の研修で全てを習得できるわけではなく、繰り返しの研修が必要であることが伺えた。

保護者向け研修後の、教員と保護者の話し合いでは、教務主任が議長となり話し合いが進められた。子どもが直面する問題について、協働して指導、助言することの必要性について活発に意見が交わされた。保護者からは、その為にも今研修で得た知識を地域で共有していく必要があるとの意見が挙がり、子どもを守ることは大人の責任であることを認識していることが伺えた。生徒向け保健トークでのクラス分けについては、年齢別の①10・12歳、②13・14歳、③15・16歳、④17歳以上の男女混合で行うことで決まった。また、コンドーム実演に関しては、10・14歳はコンドームを拾わないように説明するにとどめ、15歳以上はコンドーム実演を行なうことで合意した。

生徒向け保健トークでは、小学校では、低学年は、HIV感染が成立する体液の混同や、母子感染が挙げられないなど保健の知識はまだ多くない様子であったが、一方で、中絶方法は挙げることが出来るなど、危険性を知識として持っていない危うさを感じた。高学年は、コンドームを配布した際に、風船を作るなど落ち着きのない様子であり、HIV感染が成立する体液も低学年同様に混同しているなど、保健の知識は全体的に低い様子であった。高校では、保健の知識は高く、理科的知識に対する質問も挙がり、理解も速かった。コンドーム実演では笑いが起きていたが、誤った使用方法についての説明では、真剣に聞き留め、コンドームを使用時の質問が生徒から挙がっていた。性交渉が身近であることが推察され、保健トークの必要性を改めて感じた。

高校の校長は、当初研修に関心がない様子であったが、研修後にはその必要性や重要性を理解した様子であった。

5. 今後の課題

個別学校研修については、ムイソギ東県において、ニーズがありながら未実施の学校があり、今後も継続して実施していく必要がある。また、教員が、子どもや保護者にこの課題を教える能力を向上させるために、教員対象の集合研修を行なうことが、同県において教育官と教員が自律的にこの課題に取り組むために特に重要な課題と考えている。

以上